



[シュン!]

やまなしの
瞬

vol.3

in 甲府市

「健康安全郷育プログラム」で
山梨を元気にしたい

リズムオブラブ主宰
渡辺 光美さん



警察が、不審者に遭遇した子ども100人に聞いたところ、声を出せたのは3人、防犯ブザーを鳴らせたのは1人だったと聞きショックを受けたと渡辺さん。「言っただけでなく、体験させて体で覚えさせることが大事。原点に戻ってもっとたくましく育てなければと、あらためて思いました」



リズムオブラブ

検索

一つ一つが
かけがえのない命。
その大切さを伝えるために

「かけがえのない命を愛することのできる心と体づくり」を目指し、リズム運動に格闘技や礼儀作法などの要素を取り入れた「健康安全郷育プログラム」を考案・提供している渡辺光美さん。親子を対象にしたプログラムを基本にしながら、参加者の年齢・人数など状況に合わせて命の大切さを伝え、命を守る術を教えています。

小学校の教師だった渡辺さん。「先生になるのは子どもの頃からの夢。実は熱血教師だったんですよ。大学時代の専攻が体育、中でも表現運動が専門だったので、授業や学級活動にリズム運動を取り

入れたら、運動会では表現種目のプロデュースもしました」と、当時を笑顔で振り返ります。

転機となったのは、2001年に起きた大阪教育大学付属池田小事件。「安全なはずの小学校に不審者が乱入し8名もの児童の尊い命が奪われたという、絶対にあつてはならない事件が起きたことで、今のままではいけない、何かできることはないかと考えるようになりました」。そうして思い付いたのが、楽しみながら、かけがえのない命を守る術を身に付けたり、安心安全について一緒に考えたりすることのできる取り組み。試行錯誤を繰り返しながら実践したものが「健康安全郷育プログラム」の土台となり、今につながっています。

「教育」から「郷育」へ
さらに進化して「響育」へ

2008年3月、教師生活にピリオドを打ち、翌年4月、ボランティア団体「リズムオブラブ」を設立。故郷山梨を元気にするための「郷育」を掲げた、新たな挑戦が始まりました。

「設立以来、声が掛ければどこへでも出向き、活動を続けてきた結果、多くの県民に知ってもらい、応援してもらえるようになりました。活動のフィールドも県内全域に広がっています。ありがたいですよね」

10月上旬、甲府市立東小学校で行われた親子レク活動。講師に招かれた渡辺さんは、親子1組で不審者役の先生から逃げる「手つなぎ水鬼」や、「助けてー」と叫びながら20メートル先で待つお母さんの胸元に走り込む「助けてダッシュ」など、たっぷりスキンシップできるプログラムを用意しました。笑顔があふれた活動の最後は、横になり、親子で抱き合っただけ「ふれあいストレッチ」。心地よい音楽に包まれ、みんなの心と体が癒やされていくのが伝わってきます。

終了後、目に涙を浮かべた母親から「難しい年頃に差し掛かった息子に、久しぶりに寄り添うことができました」と感謝の気持ちを伝えられ、うれしそうに渡辺さん。山梨を元気にする「郷育」は、みんなの心に響く「響育」へと、進化を続けています。



いざというときの心と体の使い方を、親子でスキンシップを取りながら体感(甲府市立東小3年の親子レク活動で)